



舞い散る枯れ葉や冷たい風に、本格的な冬の訪れを感じる時期になってきましたね。

●友だちが気になる

視点を自分の外につくり、外から見た自分をとらえられるようになると、「これでいいのかな」と自分の活動を外から見る視点が生まれてきます。そんなとき、リズムをしても、絵を書いている、自分のしていることと友だちのしていることの違いが気になります。ちらちら友だちのしていることを見ているので、自分の活動がおぼつかなくなる子もいるでしょう。友だちの活動を見ることによって、自分の活動の良否を確かめたいのです。

こんなとき、ついついおとなも子どもの活動の細かい間違いを修正したくなります。しかし、子どもも自分の活動の良否を、気にしているのです。友だちの活動を気にしているのは、おとなに言われなくて、自分の力で自分を直していきたいからでしょう。これは、自分で自分を律する力をもつことであり、自律のはじまりといってもよいのです。こんなとき、おとなに求められるのは、間違いを指摘するよりも、子どもが自分の力で活動を修正していけるように、「こうしたいけれど、そうできない自分」への悩みを聞き、活動のヒントを与えていくことでしょう。そして、子どもの活動表現のなかにある良いものを選び出し、励まし、他者ではない自分を強く意識していけるように援助することが求められます。この他者ではない自分が自律の礎になるのです。

自分の外に自分を見つめる視点を獲得しはじめた子どもたちは、思い通りにならない自分もあるけれど、でも今の自分のなかに、こんなにすばらしい力と可能性があるのだという多面的な自己理解を必要とするようになってくるのです。

●友だちとの冒険

自分を自分の外から見つめ、自分の活動を修正するようになった5～6歳児は、おとなに指図されることがたまらなく嫌になります。友だちとの世界をつくることによって、この自律しつつある自分を、自分にもおとなにも印象づけたいのです。だから、散歩のときにわざと先生にないしょで友だちと脱走したり、ないしょで保育所の園庭の隅でいもむしを育てたりするのです。そこには、子どもたちどうしてたいせつにする「きまり

ごと」があります。また、家に帰れば、友だちとの約束を優先させて、おかあさん「きょうはあそんであげない」などということでしょう。実際、保育所や幼稚園から帰ってきて、夜までの時間に近所あそび合ったり、土曜日、日曜日には友だちの家に出かけていくようなこともするようになるでしょう。そんな友だちとの約束が何よりうれしいのです。そして、近所の飼い犬に徒党を組んでいたずらするような冒険もするでしょう。はめを外し合うことが楽しいのです。

また、「気が合う」ということばの意味を実感しはじめ、話題の共通する友だちを特別に意識するようになります。だから、当然のこととして、「男あそび」、「女あそび」という性で区別された世界をつくり、お互いにあそびを「幼稚やなあ」などと非難しあうのです。

参考文献：『発達の子・上』 白石 正久 著

☆1・2月のさくらんぼ教室のお知らせ

さくらんぼ①：1月9日 やまのぼり

持ち物・・・リュック、水筒、シューズ、(必要な方は)着替え

2月13日 おわかればーていー

持ち物・・・水筒、シューズ、油性ペン

さくらんぼ②：1月23日 やまのぼり

持ち物・・・リュック、水筒、シューズ、(必要な方は)着替え

2月27日 おわかればーていー

持ち物・・・水筒、シューズ、油性ペン

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は100円です。おつりのいらぬようご用意ください
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員にご相談して下さい。
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切って下さい。